

季節到来！ノロウイルスにご注意を！！

近頃めっきり冷え込んできました。
これからの季節は、魚介類などのおいしい時期ですね。



そこで思い起こしてください。そうです、去年ノロウイルスが猛威を振るった季節です。

ある県のデータでは、1年間で発生した食中毒の振り分けは以下の通りでした。

ノロウイルス (31%) サルモネラ (22%)
ウェルシュ菌 (15%) 腸炎ビブリオ (10%)
その他 (14%)

特筆すべきは食中毒一件あたりに平均30人が感染している事です。一度、発生してしまうと多人数に被害が出てしまうのです。



それなので、一番気を付けなくてはならないのがヒトからヒトへの二次感染なのです。

ウイルスに感染した調理者などを介しての食品汚染が多々ありました。

体調を管理し、ノロウイルスに感染又はその疑いがある場合は、その調理者に調理はさせないようにしましょう。

また、お店で発生してしまった場合は、次亜塩素酸ナトリウムなどによる消毒が必要となってきます。



正しい用量・用法で、ノロウイルスの対策をしましょう。



次亜塩素酸ナトリウムの使用方法

ウイルスに汚染された環境に対しては、500～1,000ppm (0.05～0.1%) の高濃度で使用します。

予防の為の使用方法

調理台・調理器具や床の消毒には200ppmの次亜塩素酸ナトリウムで浸すように拭きます。
嘔吐物をふき取ったタオル類は、1,000ppmの次亜塩素酸ナトリウムに5～10分間浸します。

消毒の際の注意点

1. 金属を強く腐食するので対象により使用ができません。
2. 有機物を強く腐食するので、ゴム手袋を着用し、素手で触れないようにしましょう。
3. 力価の低下が早いので、作り置きはしないようにしましょう。
4. 開栓後日数が経つと、消毒効果が低下する場合があります。
5. 酸性にすると有毒なガスを発生します。

次亜塩素酸ナトリウムは弊社でも取り扱っておりますのでご入用の際は、是非お問い合わせ下さい。

製品名：ピューラックス
(次亜塩素酸ナトリウム6%)
希釈倍率：1,000ppm (原液20mlで水990ml)
200ppm (原液 4 mlで水996ml)



地球の環境衛生を創造する **FCC**
株式会社 fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

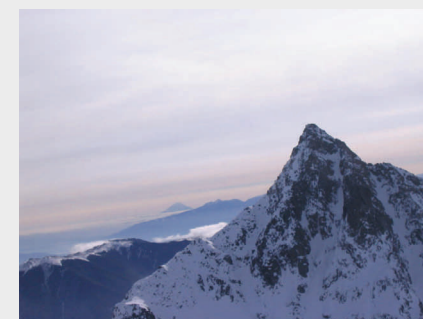
URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

FCC News

2007年12月号

NO. 0047



環境トピックス②

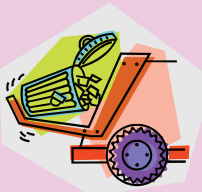
07年8月、日本郵政公社（当時）が08年用の「カーボンオフセット年賀状」の発売を発表しました。

カーボンオフセットとは経済活動や生活で『ある場所』に排出した二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などで、『別の場所』で吸収しようとする活動の総称です。

吸収した二酸化炭素の量で、発生してしまった二酸化炭素を相殺し、排出量を実質0（ゼロ）に近づけるという発想から始まりました。

「カーボンオフセット年賀状」は、はがきに5円上乗せした1枚55円で販売し、その上乗せ分で上記活動を行う目的があります。

たけしの独り言



先日、早朝の藤沢駅前現場を終えて店の外に出ると、ちょうど1台のゴミ収集車がバックしてきました。

車から降りてきたのは、何と前に勤務していた会社(食品会社)の元同僚でした。

約3年ぶりの再会ですが、お互いすぐに気付き「おー、久しぶりー!」とちょっと立ち話。約10年間苦楽を共にした昔の仲間と出会ってとても懐かしく思いました。

彼の話によると前の会社は、以前働いていた会社は経営が悪化し、会社に残っている社員は、数人だけだそうです。

ちょっと寂しい気もしますが(あー転職して良かった)、FCCも今年度より株式会社になりましたが、まだまだ小さな会社です。

いい加減なことをしていたら世間からいつ淘汰されるかもわかりません。社長以下スタッフ一人一人が目標に向かって一致団結しなければなりません。



特に難しい事をするのではなく日々お客様1軒1軒に対し親切丁寧に接し、誠心誠意対応すればおのずと良い結果がついて来ると思います。

元同僚とは「お互い地味な裏方稼業だけどこれからは頑張ろうネ」と健闘を称え合い別れました。



【写真説明】

この遺跡で生活した昔のも、虫との関わりは深かった

こんな所にもエコが…

私事なのですが、先日、第2回マカオインドアアジア大会にカバディで参加致しました。



その際、日本オリンピック委員会(JOC)では、オリンピック選手やチームを通じて、環境保全のメッセージを伝えたり、また運営や施設に色々な工夫をする事で環境を汚さない活動を進めているという事でエコバッグが支給されました。

弊社でもエコバッグを取り入れ、環境保全活動に積極的に取り組んでいきます。こうした小さな一歩の積み重ねが、大きな力になると信じております。



JOCはチーム・マイナス6%に参加し、地球温暖化防止に取り組んでいます。

ACT 1

冷房は28℃、暖房の室温は20℃に設定しよう。

ACT 2

蛇口はこまめに閉めよう。

ACT 3

ふんわりアクセル「eスタート」をしよう。



ACT 4

エコ製品を選んで買おう。

ACT 5

レジ袋を断ろう。



ACT 6

チーム・マイナス6%のHPへ

<http://www.team-6.jp>

今月より、 弊社顧問の農学博士・医学博士 林 晃史先生の連載 『季節のムシ暦』がスタートします

私達は、「ムシ」と云う生き物を何処まで知っているのだろうか。また、「ムシ」と人間の関係は、どのように保たれているのかを考えた事があるのだろうか。

人の「ムシ」に対する考え方は、人によって大きく異なるが、改めて「ムシ」を眺めてみたいものである。

今回からこのシリーズで、「虫と人間」の関係を暦を追って紹介していきたいと考えています。

虫とは何か

「虫」(ムシ)は、正しくは「昆虫」と称される生物で、地球上の全動物群の80%を占める最も大勢力を持つものです。

正確な所は判らないが、地球上の種は、80万種~120万種もあると云われている事からして、立派なものである。

こんな状態で、人間は、虫の中で棲みわけていると云うのが、実情である。したがって、時と場所によっては、人間にとって役立つものや不利益をもたらす事も出てくる訳である。

この虫たちの生物群の中での立場、身分は、節足動物に属し、昆虫綱と云う独立したグループと認識されるものである。

節足動物と称されているだけあって、体の特徴は、大きな頭、胸、胴と関節で成り立っている。

昆虫の起源

動物群の中で、最も種類が多いと云われている昆虫は、いったい何時の時代に地球に出現したのだろうか、気になる所である。

この事は、化石昆虫の研究で、「石炭紀後記」に姿を現したとされている。

また、昆虫の中で、「ゴキブリ」が最も早く地球上に出現されたと云われている。

今日、知られている昆虫類は、新生代の第三紀に殆どが出揃ったとされている。

いずれにしても、昆虫は人間より早く地球上に出現し、その種類数も多いと云う恐ろしい存在である。

また、この虫のパワーは、未知な所が多く、新たな資源となる可能性を秘めている。薬用、産業と人間に寄与した所は少なくない。それよりも、人類発生の初期には、重要な食物であった。食虫が、今日の人類につながる。